

【7】 原始聖典による誕生・出家・成道・入滅の月・日

[1] 前節までの考察の最終的な結論を得るためにも、また正確な「釈尊年表」を月、日単位で作成するためにも、釈尊の誕生（入胎・出胎）・出家・成道・入滅の日付を検討しておかなければならない。

[1-1] まず原始仏教聖典資料を紹介する。次は誕生・出家・成道・入滅のすべてを「2月8日」とする。誕生が入胎であるか出胎であるかの判断はここからはつかない。

①長阿含2 遊行経；八日如来生 八日仏出家 八日成菩提 八日取滅度
二月如来生 二月仏出家 二月成菩提 二月取涅槃。大正01 p.030上

[1-2] 次はすべてを「4月8日」とする。これも誕生が入胎であるか出胎であるかの判断はつかない。

①白法祖訳 仏般泥洹経；経曰仏以四月八日生。八日棄国、八日得道、八日滅度。以沸星時、去家学道、以沸星得道、以沸星時。般泥曰、草木復更華葉、拳国樹木皆更茂盛。仏般泥曰、去三界天中天、光明以滅、一切十方、皆自歸於仏。大正01 p.175下

②失訳 般泥洹経；仏從四月八日生、四月八日捨家出、四月八日得仏道、四月八日般泥洹、皆以仏星出時。大正01 p.188下

[1-3] 釈尊の誕生・出家・成道・入滅の日付について言及する原始聖典は以上のみであって、すべて「涅槃経」関連の文献である。しかしこれらも本文中に述べられたものではなく、経典の最後に付加されているものであって、パーリ本やサンスクリット本には見いだされなから、おそらく原始聖典自身の伝承ではあるまい。事実『白法祖』は「経曰」とか「般泥曰」「仏般泥曰」としているのであって、本来の「涅槃経」の伝承でないことを明言しているわけである。したがって後世の伝承たることは免れず、次節に述べる仏伝経典の伝承と同レベルにあるものと判断せざるを得ない。

[2] 入胎から出胎までの月数をいうものがある。「10月」とする。ただし今までこれも原始聖典の中に加えてきたが、成立の遅いものである。

①根本有部律・雑事；十月満足。大正24 p.298上

[3] そこで以下に仏伝経典やインド成立のその他の文献、あるいは中国撰述の文献の伝えるところを検討する。